

共通科目		産業環境保健学特論 Advanced Study & Research for Environmental and Occupational Health		開講	毎年・隔年
単位		科目責任者	園生雅弘 教授 (板橋・神経内科)	区分	選択
1 単位				授業形態	講義・演習

概要	<p>エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。</p> <p>事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に、ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地の環境相互関係や、他の要因(年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など)の修飾影響について理解を促す。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。</li> <li>環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。</li> <li>環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。</li> <li>大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。</li> <li>環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。</li> </ul>
事前事後学	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や、専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおく。</li> <li>当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨む。</li> <li>当該期間に15時間以上の予復習が必要。</li> </ul>
評価方法	授業における議論への参加度(50%)、最終の口頭試験(50%)
参考書	<p>(教科書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas. Oxford University Press, 2011.</li> </ul> <p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。</li> </ul>
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的なグループ討論への参加を求める。</li> <li>試験やレポートに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。</li> <li>この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。</li> </ul> <p>(※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。</p>

No.	月日	時間	講義タイトル	担当者	備考
1	1/24(金)	9:00-10:30	化学物質へのばく露評価(メチル水銀ばく露の疫学調査を一例として)	Rose Goldman (公衆衛生学研究科・客員教授)	大学棟5F 薬学部セミナー室
2	1/24(金)	10:45-12:15	環境中の有害因子の脳への影響(化学物質を例として)		〃
3	1/24(金)	13:05-14:35	環境中の化学物質による小児への発達影響		〃
4	1/25(土)	9:00-10:30	リスク評価と対策(PFASの毒性調査を例として)		〃
5	1/25(土)	10:45-12:15	環境保護に向けた世界的動向		〃
6	1/25(土)	13:05-14:35	科学的根拠の重要性(科学分野における適切な判断を行うために必要なこと)		〃
7	1/26(日)	9:00-10:30	化学物質の情報を的確に伝える重要性(学術研究結果の社会への周知)		〃
8	1/26(日)	10:45-12:15	化学物質との共存のために(経済効果と倫理的側面)		〃
その他の演習・セミナー等		各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。			

※講義日程の変更・追加の連絡等がある場合、登録されているメールアドレスに連絡します。  
 ※この科目は、1月に開催されるハート特別講義になります。詳細は事務部までお問い合わせください。